

キャリア・コンサルタントが教える

IT エンジニアのためのセルフ・キャリアプランニング

～3 つのステップで理想の自分を創りだそう！～

## 【企 画 書】

IT エンジニアの最大の不安。それは、**技術やスキルが上がらないまま年齢を重ねてしまうと、やがて若い IT エンジニアに職を奪われてしまうこと**です (IT エンジニア 35 歳定年説)。

こうした実情を踏まえ、私はキャリア・コンサルタントとして数多くの IT エンジニアのキャリア形成を支援し、「今後の自分のキャリアがイメージできるようになりました」「広い視野でスキルというものを考えられるようになりました」など、多くの喜びの声をいただきました。

本企画では、これまでのキャリア・コンサルタントとして経験と実績にもとづいて、どうすれば IT エンジニアが自分自身の将来像を描き、キャリアを創り出していくことができるかを示します。

そのポイントは、次の3つのステップを踏むことです。

第 1 ステップ～自分の想いを知る～

第 2 ステップ～仕事を知る～

第 3 ステップ～キャリアの設計書を創る～

この3つのステップを踏むことで具体的に目指すべきキャリアが見えてきますが、それらについて実例を紹介しながら解説します。

### <類書との違い>

キャリア関係に関する書籍は100冊以上発刊されていますが、IT エンジニアに特化したキャリア形成本は1冊もありません。また、既存のキャリア関係本の多くは学術的な考え方を紹介しているにすぎませんが、本企画では実践を通して培われてきた独自のキャリア形成法を示します。

<ターゲット層>

- ・システム開発全般に関わっている IT エンジニア
- ・IT エンジニアになることを希望している学生や求職者
- ・IT エンジニアを教育・指導する管理監督者
- ・システム開発会社の採用・人事部門担当者、人事部門担当者
- ・キャリア・コンサルタント

<販売促進>

IT エンジニア向け情報サイト ITMedia でコラムニストとして活動しており、約●PV/日の閲覧数の実績があります。書籍をサイトで紹介することにより、コラム閲覧者に対して書籍のことを訴求できると考えております。

## 【目 次】

### 第1章 IT エンジニアが働く現状

～このままIT エンジニアとして働くことの危険性～

- 1 IT エンジニアの仕事は「キツイ」「帰れない」「給料が安い」の3K
- 2 一般派遣契約(非正規雇用)のIT エンジニアと正規雇用のIT エンジニアの格差はこうして生まれる
- 3 IT エンジニアの仕事は専門的な技術やスキルを要するにもかかわらず、企業はIT エンジニアをいわば使い捨てのような扱い方をする
- 4 使い捨てされる IT エンジニアの苦悩。「本当に IT エンジニアはこのまま働き続けて良いのだろうか？」

### 第2章 IT エンジニアが「キャリア」を考える

～IT エンジニアが自ら将来を切り開く～

- 1 IT エンジニアが置かれた状況を打破する手段はあるか？  
(幾つかの IT エンジニアの例から)
  - (1) 将来のキャリアを考えることで、今までとは違う職種に就いた IT エンジニア
  - (2) やりたいことを突き詰めて、新しい部署を創りだした IT エンジニア
  - (3) IT エンジニアを引退し、IT エンジニアをサポートする立場に回った人
- 2 キャリアを考えなかった IT エンジニアの例
  - (1) 派遣契約のまま IT エンジニアを続けた結果、廃業してしまった IT エンジニア
  - (2) ルーチンワークが嫌になり、今の仕事を辞めた結果、どこにも就職できず、派遣契約でしか仕事ができなくなった IT エンジニア
  - (3) 会社にいわれるがままに仕事を続けた結果、技術やスキルが身につけていない 40 代 IT エンジニア
- 3 IT エンジニアがキャリアを意識する、しないで、将来の姿は大きく変わっていく
- 4 IT エンジニアがキャリアを創りだすためには、ある方法がある。それは、のべ 1000 名以上の IT エンジニアにキャリア・コンサルティングを行ってきた結果から編み出した、IT エンジニアにとって最適なキャリア形成法

### 第3章 キャリアを創る第1ステップ

～あなたの想いを知る～

- 1 あなたの仕事に対する想いを考える。あなたは何のために仕事をしているのか
- 2 あなただけのキャリアを創るということは、あなたが心の底から納得できるキャリアを創るということ
- 3 あなたの想いを知るためのワーク。「何ができるか？」ではなく「何をしたいか？」という想いを掘り下げる

### 第4章 キャリアを創る第2ステップ

～仕事を知る～

- 1 あなたの想いを実現させる仕事は一体何なのかをみつけ出す
- 2 あなたの周りにはどのような仕事があるだろうか。まずは、それらを知ること
  - (1) 業種に関連する仕事
  - (2) 職種に関連する仕事
  - (3) 職位に関連する仕事
  - (4) 技術やスキルに関連する仕事
- 3 仕事を知るためのワーク。先の4つからあなたの想いを実現する仕事があるかどうかをじっくり考えてみる

## 第5章 キャリアを創る第3ステップ

### ～キャリアの設計書を創る～

- 1 その仕事の実現可能性を考え、具体的な目標となる仕事をみつけ出す
- 2 目標とする仕事、もしくはそれと類似する仕事があなたの身の回りにあるかどうかを考えてみる
- 3 もしみつけられなかった場合や、あなたの想いを形にした仕事は何かが分からなかった場合は、あなたより会社のことを詳しく知っている人(一般的には上司)に相談してみる
- 4 具体的な仕事が見つかった場合、次はどうやったらその仕事ができるかを考える
  - (1) 仕事をするために必要な実力を身に付ける
    - ・ その仕事を行う上で必要とされる汎用的な能力の身に付け方
    - ・ その仕事を行う上で必要とされる実務能力の身に付け方
  - (2) 仕事に就くためのアプローチ
    - ・ その仕事は社内にあるのか、社外でないとないのかを見定める
    - ・ その上で、その仕事に就くためのフローチャートを考えてみる
    - ・ キーマンに対して、どのようなアプローチ方法(面接、プレゼン、オーディションなど)があるのかを調べる
    - ・ アプローチ方法を実践する
- 5 仕事をするために必要な能力の身に付け方、仕事に就くためのアプローチ方法をスケジュールに落とし込むことで、キャリアの設計書(キャリア・パス)が完成する

## 第6章 キャリアを実現するために必要なノウハウの提供

- 1 キャリアの設計図通りにいかない場合の対処法
  - (1) ケース1:時間的な制約で、キャリア形成が続けられない場合
  - (2) ケース2:自分の想いが変わってしまった場合

- 2 キャリアを実現させるためにキーマンに「選ばれる力」
  - (1) 選ばれる力1:実力をつける
  - (2) 選ばれる力2:認められるための場に出る
  - (3) 選ばれる力3:辛抱強く続ける
- 3 キャリアを実現できたら現状を維持しよう。新たなキャリアを目指したいと思ったら、再度 3 つのステップを繰り返し、新たなキャリアに向かって進もう

## 【サンプル原稿】

### 第1章 IT エンジニアが働く現状

～このまま IT エンジニアとして働くことの危険性～

#### 1 IT エンジニアの仕事は「キツイ」「帰れない」「給料が安い」の 3K

「キツイ」「帰れない」「給料が安い」の 3K。

こう聞いて、どんな仕事を思い浮かべますか？もしかしたら、いま世間の関心を集めている「ブラック企業」で働く人の仕事を連想するかもしれません。

しかし、そうではありません。「キツイ」「帰れない」「給料が安い」の 3K とは、IT エンジニアの仕事なのです。

1990 年代、インターネットの普及が爆発的に伸び始めた頃、IT 技術を駆使してシステムを開発するシステム・エンジニアやプログラマーといった IT エンジニアは時代の最先端を行く仕事でした。高い専門性をもち、高給であったことから人気が高く、花形職業と呼ばれていました。

しかし、今は違います。Google など一部の IT 企業は高い人気を誇っていますが、それ以外の IT 企業の勢いは全盛期に比べると大きく後退しています。それにとまって、この 20 年で、IT エンジニアの置かれている環境も大きく様変わりしてしまいました。

IT エンジニアが活躍するフィールドは多岐に及びますが、それらは主にシステムを開発する仕事に集約されます。景気の良い時期にはシステム開発に潤沢な予算があてられていましたが、2000 年代初頭の IT バブル崩壊や 2009 年初頭のリーマンショックなど、世の中の景気が悪くなると、それに追従するようにプロジェクトにあてられる予算も大きく削減されるようになりました。

システムを開発する際には、開発機器やハードウェアといった予算を削ることはできません。したがって、予算を削減しようとするれば、そのしわ寄せは人件費に向けられるようになります。本来、人件費は IT エンジニアを調達したり、IT エンジニアの報償として使われるものです。それが削られるということは、システムを開発するのに必要な IT エンジニアを十分に準備することができない、IT エンジニアに対して十分な報酬が支払



えないことを意味します。しかし、だからといって、顧客が求めるシステムの機能や品質が下げられるものではありません。こうして IT エンジニアは、限られた要員の中で、いかにして顧客の求めるシステムを作り上げるかという難題を突き付けられるようになったのです。

その結果、IT エンジニア一人が担当する作業範囲が広がり、稼働時間が上がりました。来る日も来る日も朝早くから夜遅くまで仕事に追われ、家に帰ることすらままなりません。このような IT エンジニアであふれたシステム開発現場は昼も夜も関係なくあかりが灯され、不夜城と呼ばれるようになりました。しかし、このような状況にあっても人件費が削られているため、作業に見合うだけの給料が支払われません。

こうして、花形職業と呼ばれ、人気が高かった IT エンジニアは、「キツイ」「帰れない」「給料が安い」という 3K になったのです。

【略歴と連絡先】

<略歴>

●●●●●  
●●●●●  
●●●●●  
●●●●●  
●●●●●  
●●●●●

<連絡先>

氏名: ●● ●●  
住所: ●●●●●  
電話: ●●●●●  
Fax : ●●●●●  
メールアドレス: ●●●●●  
ホームページ: ●●●●●